



Cisco CallManager サーバの アップグレード (ハードウェアを交換しない場合)

Cisco CallManager Release 3.2 またはそれ以前のバージョンから Cisco CallManager Release 4.2 に直接アップグレードすることはできません。サーバで Cisco CallManager Release 3.2 またはそれ以前のバージョンを実行している場合は、クラスタ内のすべてのサーバを Cisco CallManager Release 3.3、4.0、または 4.1 の最新バージョンにアップグレードしてから Cisco CallManager Release 4.2 にアップグレードする必要があります。Cisco CallManager Release 3.3 へのアップグレードについては、『Cisco CallManager Release 3.3 アップグレード手順』の最新バージョンを参照してください。



(注)

Cisco CallManager 3.3 からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェア キットに付属するディスクを使用する必要があります。

Cisco CallManager 4.0 からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェア キットに付属するディスクまたは Web ダウンロード ファイルを使用してアップグレードできます。

どのバージョンの Cisco CallManager がアップグレード可能なのかを確認するには、『Cisco CallManager Compatibility Matrix』を参照してください。

クラスタ内のパブリッシャ データベース サーバとすべてのサブスクリバ サーバで Cisco CallManager をアップグレードする必要があります。アップグレードの順序については、P.1-5 の「クラスタ内のどのサーバを最初にアップグレードするのですか」を参照してください。

始める前に

アップグレードを開始する前に、必ず次の作業を行ってください。

	アップグレード前の作業	関連項目
ステップ 1	クラスタ内のすべてのサーバで推奨バージョンの Cisco CallManager を実行していることを確認する。	Cisco CallManager Release 4.2(1) には、どのバージョンの Cisco CallManager からアップグレードできますか (P.1-3)
ステップ 2	クラスタをアップグレードする順序を確認する。	クラスタ内のどのサーバを最初にアップグレードするのですか (P.1-5) Cisco CallManager と共に CRS がインストールされている場合、共存アップグレードはどのように行われますか (P.1-6)
ステップ 3	Cisco CallManager Administration の Server Configuration ウィンドウ (System > Server) で、各サーバを追加したのが 1 度だけであることを確認する。ホスト名を使用してサーバを追加し、IP アドレスを使用して同一のサーバを追加した場合、Cisco CallManager のアップグレード後、Cisco CallManager はそのサーバのコンポーネントのバージョンを正確に判別することができなくなります。Cisco CallManager Administration に同一サーバのエントリが 2 つある場合は、アップグレードする前に一方のエントリを削除してください。	『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。
ステップ 4	ご使用のサーバ構成がこのアップグレードをサポートしていることを確認する。	このアップグレードでシスコがサポートしているサーバおよびオペレーティング システムのバージョンはどれですか (P.1-3)
ステップ 5	Cisco CallManager のアップグレードを行うために、各サーバに十分な空きディスク スペースがあることを確認する。 Cisco CallManager ディスクを使用してアップグレードする場合、2.0 ギガバイトのディスク スペースが必要です。 Web ファイルを使用してアップグレードする場合、3.0 ギガバイトのディスク スペースが必要です。	
ステップ 6	ボイスメッセージ システムとして Cisco Unity を利用している場合は、適切な移行が確実に行われるように Cisco CallManager ボイスメール ポートを設定する。	詳細については、『Release Notes for Cisco CallManager』を参照してください。本書の最新版を入手するには、 http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/index.htm にアクセスしてください。
ステップ 7	H.323 クラスタ間トランクにはそれぞれ一意のデバイス名を割り当てる。Cisco CallManager Administration の H.323 クラスタ間トランクに割り当てられているのと同じデバイス名が、複数の Cisco CallManager クラスタにある場合は、登録の問題が発生します。	トランクを設定する手順については、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

アップグレード前の作業	関連項目
ステップ 8 アップグレード前に、割り当てるデバイスプロファイルですべての H.323 ダイアルピアが Cisco CallManager サーバを指していることを確認する。H.323 Gateways 用の Cisco CallManager Administration では、H.225D On Every Node オプションは提供されなくなりました。ダイアルピアのセッション ターゲット ステートメントが該当する Cisco CallManager サーバを指していない場合、コールは失敗します。	ゲートウェイを設定する手順については、『 <i>Cisco CallManager アドミネストレーションガイド</i> 』を参照してください。
ステップ 9 サーバにインストールされているすべての共存ソフトウェア アプリケーションについて、推奨されるバックアップ手順を実行する。  注意 バックアップを完了しない場合、データや設定内容が失われることがあります。バックアップの実行についての情報は、アプリケーションをサポートしているマニュアルを参照してください。 Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) はオペレーティング システムのファイルはバックアップしません。ただし、Host ファイルおよび LMhost ファイルがサーバに存在する場合、これらはバックアップされます。 ユーティリティによってバックアップされるファイルの一覧については、『 <i>Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) Administration Guide</i> 』を参照してください。本書の最新版を入手するには、 http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/bakup/index.htm にアクセスしてください。	Cisco CallManager と共に CRS がインストールされている場合、共存アップグレードはどのように行われますか (P.1-6)
ステップ 10 セキュリティ ポリシーまたはアカウント ポリシーをデフォルトから変更すると、アップグレードが失敗する場合があります。	セキュリティ ポリシーおよびアカウント ポリシーの詳細については、Microsoft の資料を参照してください。

	アップグレード前の作業	関連項目
ステップ 11	<p>Cisco CallManager がサービス パラメータを更新する方法を理解する。</p> <p>非数値のサービス パラメータの場合</p> <p>Cisco CallManager は非数値のサービス パラメータを常に推奨値に更新します。</p> <p>数値のサービス パラメータの場合</p> <p>サービス パラメータを推奨値に設定されている場合、Cisco CallManager はアップグレード中に新しい推奨値に合わせて自動的に値を更新します。</p> <p>カスタマイズ値が最小値と最大値の範囲内にある場合は、Cisco CallManager は値を変更しません。</p> <p>最小値と最大値の範囲内でないカスタマイズ値を設定した場合、値はアップグレード中に最大値または最小値に変更されます。たとえば、最大値が 10 で、設定値が 12 である場合、Cisco CallManager は自動的に値を 10 に設定します。</p> <p>アップグレード中、サービス全体に適用されないパラメータのいくつかは、クラスタ全体に適用されるパラメータ（正式にはサービス全体に適用されるパラメータと呼ばれます）に変更される場合があります。</p>	<p>サービス パラメータの詳細については、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』および『Cisco CallManager システムガイド』を参照してください。</p>
ステップ 12	<p>Cisco CallManager 4.0 サーバをアップグレードしていて、Certificate Authority Proxy Function (CAPF) サーバを使用する電話機に証明書をインストールした場合は、既存の CAPF データを移行する。</p>	<p>既存の CAPF データの移行 (P.2-5)</p>
ステップ 13	<p>すべての Web ブラウザ ウィンドウを閉じる。</p>	<p>開いているウィンドウがある場合、Sun Microsystem JRE パッケージのインストール後、Cisco CallManager によってサーバがリブートします。</p>
ステップ 14	<p>すべての Cisco CallManager エクステンション モビリティ ユーザがアップグレード前にシステムからログアウトしたことを確認する。</p>	<p>アップグレード中にログインしたままのエクステンション モビリティ ユーザがいる場合、それらのユーザはログオフして再度ログインするまで、電話機の一部の機能を使用できない可能性があります。</p>
ステップ 15	<p>アップグレード前に、ローカル Administrator アカウントのパスワード、SQL サーバの SA パスワード、プライベート パスワード フレーズ、およびパブリッシュ データベース サーバのコンピュータ名を入手する。</p>	<p>アップグレード中に必要となる場合がある情報 (P.2-7)</p>
ステップ 16	<p>アップグレード前に、現在のすべての Cisco パートナーおよび加盟企業が製造するアプリケーションと製品について、基本的な接続性と機能に関するテストを現在の（アップグレード前の）環境で実行する。アップグレード後の手順で使用するために、テストの内容と結果を文書化します。</p>	

アップグレード前の作業	関連項目
ステップ 17 Cisco パートナーまたは加盟企業のソフトウェア（適切なバージョンのもの）、およびこのバージョンの Cisco CallManager をサポートするために必要なマニュアルを入手し、確認する。	このアップグレードでシスコがサポートしているサードパーティ製アプリケーションはどれですか (P.1-4)

既存の CAPF データの移行



注意

ここで説明する作業を実行しないと、CAPF データが失われる場合があります。

Cisco CallManager をアップグレードする前に、次の事項を確認します。

- Cisco CallManager 4.0 パブリッシュ データベース サーバに CAPF がインストールされていた場合の Cisco CallManager 4.0 からのアップグレード : Cisco CallManager 4.2 にアップグレードする前に証明書操作を実行し、CAPF がパブリッシュ データベース サーバで実行された場合、最新の操作ステータスは Cisco CallManager 4.2 データベースに移行されます。
- Cisco CallManager 4.0 サブスクリバ サーバに CAPF がインストールされていた場合の Cisco CallManager からのアップグレード : Cisco CallManager 4.2 にアップグレードする前に証明書操作を実行し、CAPF がサブスクリバ サーバで実行された場合、クラスタを Cisco CallManager 4.2 にアップグレードする前に CAPF データを 4.0 パブリッシュ データベース サーバにコピーする必要があります。

4.0 サブスクリイバサーバから 4.0 パブリッシャ データベース サーバへの CAPF 1.0(1) データのコピー



注意

CAPF ユーティリティ 1.0(1) が Cisco CallManager 4.0 サブスクリイバサーバにインストールされている場合は、Cisco CallManager 4.2 にアップグレードする前に、CAPF データを 4.0 パブリッシャ データベース サーバにコピーする必要があります。この作業を実行しないと、CAPF データが失われます。たとえば、C:\Program Files\Cisco\CAPF\CAPF.phone にある電話機の記録ファイルが失われることがあります。データが失われても、CAPF ユーティリティ 1.0(1) を使用して発行したローカルで有意の証明書は電話機に残りますが、無効な証明書については、CAPF 4.2(1) は再発行する必要があります。

ファイルをコピーするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 表 2-1 のファイルを、CAPF 1.0 がインストールされているマシンから Cisco CallManager 4.0 がインストールされているパブリッシャ データベース サーバにコピーします。

表 2-1 サーバからサーバへのコピー

コピーするファイル	コピー元 (CAPF 1.0 がインストールされているマシン)	コピー先 (Cisco CallManager 4.0 がインストールされているパブリッシャ データベース サーバ)
*.0	C:\Program Files\Cisco\CAPF	C:\Program Files\Cisco\Certificates
CAPF.phone	C:\Program Files\Cisco\CAPF	C:\Program Files\Cisco\CAPF
CAPF.cfg ファイル	C:\Program Files\Cisco\CAPF	C:\Program Files\Cisco\CAPF

- ステップ 2** クラスタ内のすべてのサーバを Cisco CallManager 4.2 にアップグレードします。
- ステップ 3** クラスタを Cisco CallManager 4.2 にアップグレードしたら、Cisco CTL クライアントをアップグレードし、電話機を使用する前にそのクライアントを実行します。Cisco CTL クライアントは CAPF 証明書をクラスタ内のすべてのサーバにコピーします。
- ステップ 4** Cisco CallManager 4.0 で使用していた CAPF ユーティリティを削除します。表 2-1 を参照してください。

アップグレード中に必要となる場合がある情報

アップグレード手順を実行するときは、次の表の情報を使用してください。



注意

ローカル Administrator アカウントおよび SA (SQL Server システム管理者) アカウントを入力する場合は、英数字の文字だけを入力してください。アカウントのパスワードは、クラスタ内のすべてのサーバで一致する必要があります。各アカウントについては、クラスタ内のすべてのサーバで同じパスワードを入力する必要があります。

アップグレード時に、プライベート パスワード フレーズのプロンプトが表示されます。アップグレードでは、ユーザが入力した文字列を使用して一意の暗号化パスワードを作成します。クラスタ内のすべてのサーバに同じフレーズを入力する必要があります。

表 2-2 アップグレード中に必要となる場合がある情報

データ	ユーザ使用欄
バックアップ時のバックアップ ファイルの保存先	
ワークグループ名	
会社名	
パブリッシュ データベース サーバのコンピュータ名	
ローカル Administrator アカウントのパスワード (クラスタ内のすべてのサーバについて同じパスワード)	
LDAP (DC) Directory Manager のパスワード (クラスタ内のすべてのサーバについて同じパスワード)	
SQL Server の SA パスワード (クラスタ内のすべてのサーバについて同じパスワード)	
クラスタのプライベート パスワード フレーズ (クラスタ内のすべてのサーバについて同じフレーズ)	

Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバのアップグレード

次を参照して、アップグレード作業、作業の指定時間、手順を入手する場所を確認してください。

作業	手順	作業の実行にかかる時間
ステップ 1 アップグレード前の作業をすべて実行したことを確認する。	P.2-2 の「始める前に」 および P.2-7 の「アップグレード中に必要となる場合がある情報」を参照してください。	クラスタのサイズによって異なる
ステップ 2 クラスタ内のすべてのサーバを NT ドメインまたは Microsoft Active Directory ドメインから削除する。	P.2-11 の「NT ドメインまたは Microsoft Active Directory ドメインからシステムを削除してサーバをリブートする (設定されている場合は必須)」を参照してください。  ヒント この作業はクラスタ内のすべてのサーバで同時に実行することができます。	クラスタのサイズによって異なる
ステップ 3 クラスタ内のサーバで稼働しているプラットフォーム エージェント、シスコ認定のアプリケーション (Cisco Partner Applications)、シスコ提供の共存アプリケーションをすべて手動で無効にして停止する。サーバをリブートします。	パフォーマンス モニタリング サービス (NetIQ など)、アンチウィルス サービス (シスコ認定の McAfee サービス)、侵入検知サービス (たとえば Cisco Security Agent)、リモート管理サービスなどのプラットフォーム エージェントおよびサービスを無効にすると、これらのサービスに関連する問題がアップグレード中に発生することを防止できます。 P.2-12 の「サードパーティ製、シスコ認定、およびシスコ提供による共存アプリケーションを無効にして停止し、サーバをリブートする (必須)」を参照してください。  ヒント この作業はクラスタ内のすべてのサーバで同時に実行することができます。	20 分
ステップ 4 CIPT Backup and Restore System (BARS) バージョン 4.0(7) (またはそれ以降)を手動でインストールして設定する。	パブリッシャ データベース サーバにバックアップユーティリティをインストールして設定することを推奨します。 CIPT Backup and Restore System (BARS) はオペレーティングシステムのファイルはバックアップしません。ただし、Host ファイルおよび LMhost ファイルがサーバに存在する場合、これらはバックアップされます。ユーティリティによってバックアップされるファイルの一覧については、『Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) Administration Guide』を参照してください。本書の最新版を入手するには、 http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/backup/index.htm にアクセスしてください。	15 分

作業	手順	作業の実行にかかる時間
ステップ 5 Backup and Restore System (BARS) バージョン 4.0(7) (またはそれ以降) を使用して、Cisco CallManager データをネットワーク ディレクトリまたはテープ ドライブに手動でバックアップする。	システムのバックアップについては、『Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) Administration Guide』を参照してください。本書の最新版を入手するには、 http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/backup/index.htm にアクセスしてください。  ヒント システムのバックアップを行う前に CDR をアーカイブするか、削除しておくこと、Cisco CallManager のアップグレードに要する時間が大幅に短縮されます。	Cisco CallManager の規模および Call Detail Record (CDR) のデータベースのサイズにより 30 ~ 60 分
ステップ 6 クラスタ内のすべてのサーバで Cisco CallManager Upgrade Assistant Utility を実行する。 この作業を実行するときは、パブリッシュ データベース サーバから開始して、クラスタ内のサーバを一度に 1 台ずつ処理します。	Cisco CallManager Upgrade Assistant Utility は、アップグレード前にサーバが正常な状態であることを確認します。この作業を実行するときは、パブリッシュ データベース サーバから開始して、クラスタ内のサーバを一度に 1 台ずつ処理します。 P.2-14 の「クラスタ内のすべてのサーバで Cisco CallManager Upgrade Assistant Utility を実行する (強く推奨)」 を参照してください。	パブリッシュ データベース サーバの場合は 1 ~ 20 分、サブスクライバ サーバの場合は 1 ~ 5 分
ステップ 7 サーバでドライブの取り外しがサポートされている場合は、サーバからドライブを取り外してデータと設定を保存する。	P.2-14 の「ドライブを取り外し、代替のドライブを取り付けてドライブをミラーリングする (強く推奨)」 を参照してください。	サーバのタイプにより 15 ~ 60 分
ステップ 8 オペレーティング システム アップグレード CD-ROM を利用するか、またはオペレーティング システム アップグレードを Web からダウンロードして、オペレーティングシステムをシスコ提供のバージョン 2000.4.2sr2 (またはそれ以降) にアップグレードする。	アップグレードを実行する前に、オペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに記載されているオペレーティングシステムの readme 情報を必ず読んでください。このサイトには、 http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml の Cisco CallManager ソフトウェア ページからアクセスできます。 パブリッシュ データベース サーバで最初に実行し、パブリッシュ データベース サーバでの Cisco CallManager のアップグレードを完了してから、サブスクライバ サーバでオペレーティング システムをアップグレードします。	サーバのタイプにより、サーバ当たり 45 ~ 75 分
ステップ 9 最新の Cisco IP Telephony Server Operating System サービス リリース (2000.4.2sr2 またはそれ以降) をダウンロードして、インストールします。(必須)	オペレーティング システム サービス リリースは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。 インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates』、および『Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、 http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml にアクセスしてください。	15 分

作業	手順	作業の実行にかかる時間
ステップ 10	<p>最新の OS 関連のセキュリティ ホットフィックスがある場合は、ダウンロードしてインストールする。(推奨)</p> <p>オペレーティング システムに関連するセキュリティ ホットフィックスは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。</p> <p>インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates』、および『Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml にアクセスしてください。</p>	5 分
ステップ 11	<p>Cisco CallManager をアップグレードする。</p> <p>Cisco CallManager 3.3 からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェア キットに付属するディスクを使用する必要があります。</p> <p>Cisco CallManager 4.0(x) からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェア キットに付属するディスクまたは Web ダウンロード ファイルを使用してアップグレードできます。</p> <p> 注意 Cisco CallManager のインストールは順次、つまり一度に 1 台のサーバで実行する必要があります。サーバをリブートし、サーバがパブリッシュ データベース サーバからサブスクリプションを取り出したことを確認したら、次のサーバでアップグレードを開始できます。</p> <p>P.2-16 の「ディスクの挿入または Web ファイルのダウンロード」を参照してください。</p>	サーバのタイプにより、サーバ当たり 45 ~ 120 分
ステップ 12	<p>P.2-20 の「Cisco CallManager サブスクリバ サーバのアップグレード」の手順を参照してください。</p> <p> (注) クラスタへのサブスクリバ サーバの追加は、以前のバージョンの Cisco CallManager をサブスクリバ サーバにインストールし、その後でパブリッシュ サーバと同じバージョンにアップグレードするという方法によって行うことはできません。クラスタ上で新規のサブスクリバ サーバを追加する、またはサブスクリバ サーバを置き換える場合は、パブリッシュ サーバで実行されている Cisco CallManager と同じバージョンのインストール CD を使用する必要があります。</p>	クラスタのサイズによって異なる

NT ドメインまたは Microsoft Active Directory ドメインからシステムを削除してサーバをリブートする (設定されている場合は必須)



ヒント

この作業はクラスタ内のすべてのサーバで同時に実行することができます。

リブートを同時に実行すると、コール処理が中断されます。



注意

アップグレード中にドメイン内にサーバが存在すると、サーバ間の認証が失敗したり、デフォルト以外のドメインセキュリティポリシーによって、Cisco CallManager による重要な NT アカウントの作成が制限される場合があります。ドメインからのシステムの削除およびワークグループへのシステムの追加に失敗すると、アップグレードエラーが発生する、アップグレードが失敗する、またはデータが失われて Cisco CallManager を最初から再インストールする必要が生じるなど、システム全体の障害となる場合があります。クラスタ内のすべてのサーバのアップグレード手順が完了するまで、サーバをドメイン内に戻さないでください。

次の手順を実行して、NT ドメインまたは Microsoft Active Directory ドメインに存在するサーバをすべて転用します。

手順

- ステップ 1** Start > Settings > Control Panel > System を選択します。
- ステップ 2** Network Identification タブをクリックします。
- ステップ 3** Properties ボタンをクリックします。
- ステップ 4** Workgroup オプション ボタンをクリックし、対応するフィールドに WRKGRP などの名前を入力します。
- ステップ 5** OK をクリックします。
- ステップ 6** プロンプトが表示されたら、サーバを再起動します。
- ステップ 7** Administrator のパスワードを使用して、サーバにログインします。
- ステップ 8** この手順は、NT ドメイン内に存在するクラスタ内のすべてのサーバに対して実行します。
- ステップ 9** ドメイン コントローラに移動して、クラスタ内にある各 Cisco CallManager サーバのコンピュータアカウントを削除します。

サードパーティ製、シスコ認定、およびシスコ提供による共存アプリケーションを無効にして停止し、サーバをリブートする (必須)



ヒント

この作業はクラスタ内のすべてのサーバで同時に実行する必要があります。

リブートにより、コール処理が中断される場合があります。

インストール前に無効にする必要があるシスコ認定アプリケーションのリストを参照するには、<http://www.cisco.com/pcgi-bin/ecoa/Search> をクリックします。Solution ペインで、**IP Telephony** をクリックします。Solution Category ドロップダウン リスト ボックスから **Operations, Administration, and Maintenance (OAM)** を選択します。Search をクリックします。

アンチウイルス サービス、侵入検知サービス (たとえば、Cisco Security Agent)、OEM サーバ エージェント、サーバ管理エージェント、VOIP モニタリング / パフォーマンス モニタリング、または リモート アクセス / リモート管理エージェントなどのプラットフォーム エージェントは、Cisco CallManager のインストールを妨げる可能性があります。パフォーマンス モニタリング サービス (NetIQ など)、アンチウイルス サービス (シスコ認定の McAfee サービス)、侵入検知サービス、リモート管理サービスなど、プラットフォーム エージェントおよびサービスを無効にすると、これらのサービスに関連する問題が発生することを防止できます。

本書では、シスコ認定の McAfee アンチウイルス サービスを無効にする手順だけを説明しています。その他のサービスまたはアプリケーションを無効にする手順についてヘルプが必要な場合は、製品に付属のマニュアルを参照してください。

McAfee アンチウイルス サービスを無効にするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Start > Settings > Control Panel > Administrative Tools > Services を選択します。

ステップ 2 Services ウィンドウから、アンチウイルス サービス (Network Associates Alert Manager、Network Associates McShield、Network Associates Task Manager、または McAfee Framework Service) のいずれかを右クリックし、**Properties** を選択します。



(注) アンチウイルス サービスの名前は、アンチウイルス ソフトウェアのバージョンに依存します。

ステップ 3 Properties ウィンドウに General タブが表示されていることを確認します。

ステップ 4 Service Status 領域で、**Stop** をクリックします。

ステップ 5 Startup type ドロップダウン リスト ボックスから、**Disabled** を選択します。

ステップ 6 OK をクリックします。

ステップ 7 シスコ認定のすべての McAfee アンチウイルス サービス (Network Associates Alert Manager、Network Associates McShield、Network Associates Task Manager) に対して、[ステップ 1](#)～[ステップ 6](#) を実行します。

ステップ 8 サーバをリポートして、サービスが実行されていないことを確認します。

**注意**

リポート後にサービスが起動しないことを確認してください。

**注意**

現在、シスコ認定のアンチウイルス ソフトウェアまたは侵入検知ソフトウェアをサーバにインストールしていない場合は、クラスタ内の全サーバのアップグレードまたはインストールを完了するまで、これらのソフトウェアをインストールしないことを強く推奨します。

CIPT Backup and Restore (BARS) バージョン 4.0(7) (またはそれ以降) をインストールして設定する (強く推奨)

パブリッシャ データベース サーバにバックアップユーティリティをインストールして設定することを推奨します。CIPT Backup and Restore System (BARS) はオペレーティング システムのファイルはバックアップしません。ただし、Host ファイルおよび LMhost ファイルがサーバに存在する場合、これらはバックアップされます。

ユーティリティによってバックアップされるファイルの一覧については、『*Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) Administration Guide*』を参照してください。本書の最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/backup/index.htm> にアクセスしてください。

既存のデータをバックアップする (強く推奨)

システムのバックアップについては、『*Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) Administration Guide*』を参照してください。本書の最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/backup/index.htm> にアクセスしてください。

クラスタ内のすべてのサーバで Cisco CallManager Upgrade Assistant Utility を実行する（強く推奨）



ヒント

この作業を実行するときは、パブリッシャ データベース サーバから開始して、クラスタ内のサーバを一度に1台ずつ処理します。

リポートにより、コール処理が中断される場合があります。

必須アイテム：Web からのユーティリティのダウンロード

アップグレード前に最新の Cisco CallManager Upgrade Assistant Utility を実行して、サーバが正常な状態であることを確認します。Web 上で、ユーティリティの隣に配置されているマニュアルには、ユーティリティについての詳細が説明されています。最新バージョンのユーティリティとマニュアルを入手するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** <http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> をクリックします。
- ステップ 2** **Cisco CallManager Version 4.2** をクリックします。
Cisco CallManager 4.2 ソフトウェア ページが表示されます。
- ステップ 3** マニュアルを探してダウンロードします。
- ステップ 4** マニュアルを参照して、Cisco CallManager がインストールされているクラスタ内のすべてのサーバにユーティリティをダウンロードして実行します。

ドライブを取り外し、代替のドライブを取り付けてドライブをミラーリングする（強く推奨）

必須アイテム：新規に購入したハード ドライブ

サーバが MCS-7815、MCS-7820、MCS-7822、MCS-7825、またはお客様が用意する IBM xSeries 330 である場合、ドライブは取り外しできません。

データのバックアップに成功したことを確認したら、ドライブを取り外して設定したデータを保管できます。ただし、オペレーティング システムの手順を開始する前に、代替のドライブを取り付ける必要があります。場合によっては、この作業のために新しいドライブを購入する必要があります。

このプロセスには、ドライブのサイズに応じて、30 ～ 60 分かかります。

ドライブを取り外し、代替のドライブを取り付けてドライブをミラーリングするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** パブリッシャ データベース サーバの電源をオフにします。

ステップ 2 MCS-7845 を除くすべてのサーバに対して、スロット 0 からハード ドライブを取り外し、マシン名、スロット番号、および Cisco CallManager の現在のバージョンを記入したラベルを貼付します。

MCS-7845 では、スロット 0 および スロット 2 からドライブを取り外します。

ステップ 3 システムの電源をオンにします。

Cisco MCS

ステップ 4 Cisco MCS に対して次の手順を実行します (MCS-7845 には予備のハード ドライブが 2 つ必要です)。

- a. F2 キーを押して、MCS-7830、MCS-7835、または MCS-7845 で一時回復モードを有効にします。



(注) MCS-7835H-2.4 (またはそれ以降) および MCS-7845H-2.4 (またはそれ以降) では、デフォルトは F2 に設定され、10 秒後に自動的に処理を続行します。

- b. このステップは、MCS-7830、MCS-7835、または MCS-7845 にだけ適用されます。
プロンプトが表示されたら、F1 キーを押し、続行します。
- c. Windows 2000 のブートが終了したら、代替のハード ドライブを スロット 0 に取り付けます。



(注) MCS-7845 では、スロット 0 のドライブに対するミラーリング プロセスが完了するまで、スロット 2 に代替のドライブを取り付けしないでください。

- d. MCS-7830、MCS-7835、または MCS-7845 で、**Start > Compaq Systems Tools > Compaq Array Configuration Utility** を選択します。Array Configuration Utility Warning ウィンドウが表示されたら、**OK** をクリックします。
- e. 画面の右下にあるステータスバーで、ミラーリング プロセスの終了を確認します。
- f. このステップは、MCS-7845 にだけ適用されます。
スロット 0 でミラーリング プロセスが完了したら、スロット 2 に次のドライブを取り付けます。スロット 2 にドライブを取り付けると、ミラーリング プロセスが自動的に実行されます。

IBM xSeries サーバ

ステップ 5 IBM xSeries サーバに対しては、次の手順を実行します。

- a. スロット 0 に代替のドライブを取り付けます。
- b. F5 キーを押します。
- c. **Start > Programs > ServeRaid Manager > ServeRaid Manager** を選択します。ドライブのミラーリングの進行状況が表示されます。

オペレーティング システムをシスコが提供するバージョン 2000.4.2sr2（またはそれ以降）にアップグレードする（必須）

アップグレードを実行する前に、オペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに記載されているオペレーティング システムの readme 情報を必ず読んでください。このサイトには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> の Cisco CallManager ソフトウェア ページからアクセスできます。

パブリッシュ データベース サーバで最初にアップグレードを実行し、パブリッシュ データベース サーバでの Cisco CallManager のアップグレードを完了してから、サブスクリバサーバでオペレーティング システムをアップグレードします。

Cisco CallManager Release 4.2(1) にアップグレードする前に、最新のサービス リリース付き Cisco IP Telephony オペレーティング システム バージョン 2000.4.2sr2（またはそれ以降）にアップグレードすることを推奨します。Cisco IP Telephony オペレーティング システム バージョン 2000.4.2 Service Release 1 用のアップグレード インストーラ ファイルは、win-OS-Upgrade-K9.2000-4-2sr2.exe です。

Cisco IP Telephony Server Operating System Service Release をダウンロードしてインストールする（必須）

最新の Cisco IP Telephony Server Operating System サービス リリース（2000.4.2sr2 またはそれ以降）をダウンロードして、インストールします。オペレーティング システム サービス リリースは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。

インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『*Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates*』、および『*Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server*』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にアクセスしてください。

最新の OS 関連のセキュリティ ホットフィックスがある場合は、ダウンロードしてインストールする（推奨）

オペレーティング システムに関連するセキュリティ ホットフィックスは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。

インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『*Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates*』、および『*Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server*』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にアクセスしてください。

ディスクの挿入または Web ファイルのダウンロード



(注)

Cisco CallManager 3.3 からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェア キットに付属するディスクを使用する必要があります。

Cisco CallManager 4.0(x) からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェア キットに付属するディスクまたは Web ダウンロード ファイルを使用してアップグレードできます。



(注) Cisco CallManager に必須であり、かつこれによってインストールされる重要なサードパーティ製コンポーネントには、インストール中に複数回のリブートを必要とするものがあります。また、手動によるインストールプログラムの再実行および設定データのを入力を必要とするものもあります。

必須アイテム : Cisco CallManager 4.2(1) Installation and Recovery Disk または Cisco CallManager 4.2(1) Web ダウンロード ファイル

次の手順を実行してください。

手順

ステップ 1 オペレーティング システムのアップグレード後、サーバにログインしていなかった場合は、Administrator のパスワードを使用してサーバにログインします。

ステップ 2 ディスクと Web のどちらを使用してアップグレードするかを選択します。

- ディスクを使用する場合 : ステップ 3 ~ ステップ 4
- Web ファイルを使用する場合 : ステップ 5 ~ ステップ 11

ディスクを使用する場合

ステップ 3 Cisco CallManager 4.2 Installation, Upgrade, and Recovery Disk 1 を用意し、ドライブに挿入します。

インストール プロセスが自動的に開始します。



ヒント 手順で指示されるまで、ディスクを取り出さないでください。

ステップ 4 「関連する Cisco CallManager サービスをアップグレードしてサーバを検出する (必須)」に進み、アップグレードを続行します。

Web ファイルを使用する場合

ステップ 5 <http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> をクリックします。

ステップ 6 Cisco CallManager Version 4.2 をクリックします。

ステップ 7 Cisco CallManager 4.2(1) アップグレード ファイルをハード ドライブにダウンロードします。

ステップ 8 ダウンロードしたファイルを保存した場所を記録します。

ステップ 9 ダウンロードしたファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。

ステップ 10 このファイルを Web アップグレードのためだけに実行することを確認するメッセージが表示されます。Yes をクリックします。

Preparing To Install ウィンドウが表示されます。インストールの準備に数分かかります。

ステップ 11 「関連する Cisco CallManager サービスをアップグレードしてサーバを検出する（必須）」に進み、アップグレードを続行します。

関連する Cisco CallManager サービスをアップグレードしてサーバを検出する（必須）

次の手順を実行して、アップグレードを続行します。



(注)

オペレーティング システムのアップグレード後、サーバにログインしていなかった場合は、Administrator のアカウントを使用してサーバにログインします。

手順

ステップ 1 Cisco CallManager のアップグレード前およびアップグレード後のバージョンを確認するには、**Yes** をクリックします。

ステップ 2 アンチウイルスおよび侵入検知ソフトウェアを無効にしたことを確認するには、**Yes** をクリックします。



ヒント

ここでサービス パックをインストールした場合は、サービス パックをインストールしてサーバをリブートした後に、Cisco CallManager Installation, Upgrade, and Recovery Disk 1 をもう一度挿入します。Cisco IP テレフォニー アプリケーションがインストール準備を行う間、待機します。

ステップ 3 重要なサードパーティ製コンポーネントを Cisco CallManager がインストールするために、サーバのリブートおよび設定データの入力が複数回必要になる場合があることを確認し、**OK** をクリックします。

ステップ 4 **I accept the terms in the license agreement** オプション ボタンをクリックして Cisco CallManager 使用許諾に同意し、その後 **Next** をクリックします。

ステップ 5 Welcome ウィンドウで **Next** をクリックします。

ステップ 6 Administrator Password / Private Password ウィンドウで、次の操作を行います。

- a. 管理者のパスワードを入力します。
- b. クラスタのプライベート パスワード フレーズを入力し、さらに確認のためパスワードを再入力します。
- c. **Next** をクリックします。

ステップ 7 Database パスワード ウィンドウで、次の操作を行います。

- a. SQL システム管理者 (SA) パスワードを入力し、さらに確認のためパスワードを再入力します。
- b. **Next** をクリックします。

ステップ 8 インストールを開始するには、**Install** をクリックします。

ステップ 9 サーバをリブートしてインストールを続行するには、**OK** をクリックします。

ステップ 10 サーバのリブート後、Windows Administrator アカウントでログインします。

インストールが開始されます。ステータス ウィンドウが開いて、インストールの進行状況が表示されます。**Cancel** はクリックしないでください。



(注) ステータス バーに表示されるインストールの進行状況は、各ソフトウェア パッケージがインストールされているとき、およびインストール プログラムがユーザのマシンを構成しているときにリセットされる場合があります。インストール プログラムによっては、ステータス バーは複数回リセットされることがあります。インストール プログラムが要求しない限り、サーバをリブートしないでください。

ステップ 11 Cisco CallManager 4.2(1) インストール ディスクを使用している場合、次のアップグレード ディスクを挿入する必要があることを示すメッセージが表示されます。次のステップに従ってください。

- a. Cisco CallManager 4.2(1) Installation, Upgrade, and Recovery Disk 2 を挿入して、**OK** をクリックします。

最初のアップグレード ディスクをもう一度インストールする必要があるというメッセージが表示されます。

- b. Cisco CallManager 4.2(1) Installation, Upgrade, and Recovery Disk 1 を挿入して、**OK** をクリックします。

ステップ 12 **Finish** をクリックします。

ステップ 13 **Yes** をクリックして、サーバをリブートします。

Cisco CallManager サブスクライバサーバのアップグレード



(注) クラスタへのサブスクライバサーバの追加は、以前のバージョンの Cisco CallManager をサブスクライバサーバにインストールし、その後でパブリッシャサーバと同じバージョンにアップグレードするという方法によって行うことはできません。クラスタ上で新規のサブスクライバサーバを追加する、またはサブスクライバサーバを置き換える場合は、パブリッシャサーバで実行されている Cisco CallManager と同じバージョンのインストール CD を使用する必要があります。

サブスクライバサーバをアップグレードするには、次の作業を実行します。

作業	重要な情報およびリソース
ステップ 1 アップグレードの準備作業を実行する。	P.2-2 の「始める前に」および P.2-7 の「アップグレード中に必要となる場合がある情報」を参照してください。
ステップ 2 NT ドメインまたは Microsoft Active Directory ドメインからすべてのサーバを削除したことを確認する。	P.2-22 の「NT ドメインまたは Microsoft Active Directory ドメインからシステムを削除してサーバをリブートする (設定されている場合は必須)」を参照してください。
ステップ 3 サーバで実行するサードパーティ製、シスコ認定およびシスコ提供による共存アプリケーションをすべて無効にし、停止したことを確認する。サーバをリブートしたことを確認する。	P.2-23 の「サードパーティ製、シスコ認定、およびシスコ提供による共存アプリケーションを無効にして停止し、サーバをリブートする (必須)」を参照してください。
ステップ 4 オプションの作業 ServPrep ユーティリティを実行する。	このユーティリティを実行するには、Cisco CallManager Subscriber Preparation Disk が必要です。シスコは、このユーティリティを Web では提供していません。 P.2-24 の「ServPrep ユーティリティを実行する (オプション)」を参照してください。
ステップ 5 オペレーティングシステムアップグレード CD-ROM を利用するか、またはオペレーティングシステムアップグレードを Web からダウンロードして、オペレーティングシステムをシスコ提供のバージョン 2000.4.2sr2 (またはそれ以降) にアップグレードする。	アップグレードを実行する前に、オペレーティングシステム暗号化ソフトウェアのページに記載されているオペレーティングシステムの readme 情報を必ず読んでください。このサイトには、 http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml の Cisco CallManager ソフトウェア ページからアクセスできます。  注意 必要であれば、クラスタ内のすべてのサブスクライバサーバで同時にオペレーティングシステムをアップグレードすることができます。この作業により、コール処理が中断されます。

作業	重要な情報およびリソース
ステップ 6 最新の Cisco IP Telephony Server Operating System サービスリリース (2000.4.2sr2 またはそれ以降) をダウンロードして、インストールする。(必須)	<p>オペレーティング システム サービス リリースは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。</p> <p>インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates』、および『Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml にアクセスしてください。</p>
ステップ 7 最新の OS 関連のセキュリティ ホットフィックスがある場合は、ダウンロードしてインストールする。(推奨)	<p>オペレーティング システムに関連するセキュリティ ホットフィックスは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。</p> <p>インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates』、および『Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml にアクセスしてください。</p>
ステップ 8 順次に行う作業 一度に 1 台のサーバで Cisco CallManager のアップグレードを実行する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;"></p> <p>注意 サブスクリイバサーバをアップグレードしているときに、パブリッシュサーバをリブートしないでください。</p> </div> <p>Cisco CallManager 3.3 からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェア キットに付属するディスクを使用する必要があります。</p> <p>Cisco CallManager 4.0(x) からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェア キットに付属するディスクまたは Web ダウンロード ファイルを使用してアップグレードできます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;"></p> <p>注意 Cisco CallManager のインストールは順次、つまり一度に 1 台のサーバで実行する必要があります。サーバをリブートし、サーバがパブリッシュ データベース サーバからサブスクリプションを取り出したことを確認したら、次のサーバでアップグレードを開始できます。</p> </div> <p>パブリッシュ データベース サーバとサブスクリイバサーバに使用する Cisco CallManager Installation, Upgrade, and Recovery Disk または Web ダウンロードは同じものです。</p> <p>P.2-25 の「ディスクの挿入または Web ファイルのダウンロード」を参照してください。</p>
ステップ 9 クラスタ内のすべてのサーバでインストールが完了したら、アップグレード後の作業を実行する。	<p>P.3-1 の「アップグレード後の作業の実行」を参照してください。</p>

NT ドメインまたは Microsoft Active Directory ドメインからシステムを削除してサーバをリブートする（設定されている場合は必須）



ヒント

この作業はクラスタ内のすべてのサーバで同時に実行することができます。

リブートを同時に実行すると、コール処理が中断されます。



注意

アップグレード中にドメイン内にサーバが存在すると、サーバ間の認証が失敗したり、デフォルト以外のドメインセキュリティポリシーによって、Cisco CallManager による重要な NT アカウントの作成が制限される場合があります。ドメインからのシステムの削除およびワークグループへのシステムの追加に失敗すると、アップグレードエラーが発生する、アップグレードが失敗する、またはデータが失われて Cisco CallManager を最初から再インストールする必要が生じるなど、システム全体の障害となる場合があります。クラスタ内のすべてのサーバのアップグレード手順が完了するまで、サーバをドメイン内に戻さないでください。

次の手順を実行して、NT ドメインまたは Microsoft Active Directory ドメインに存在するサーバをすべて転用します。

手順

- ステップ 1** Start > Settings > Control Panel > System を選択します。
- ステップ 2** Network Identification タブをクリックします。
- ステップ 3** Properties ボタンをクリックします。
- ステップ 4** Workgroup オプション ボタンをクリックし、対応するフィールドに WRKGRP などの名前を入力します。
- ステップ 5** OK をクリックします。
- ステップ 6** プロンプトが表示されたら、サーバを再起動します。
- ステップ 7** Administrator のパスワードを使用して、サーバにログインします。
- ステップ 8** この手順は、NT ドメイン内に存在するクラスタ内のすべてのサーバに対して実行します。
- ステップ 9** ドメイン コントローラに移動して、クラスタ内にある各 Cisco CallManager サーバのコンピュータアカウントを削除します。

サードパーティ製、シスコ認定、およびシスコ提供による共存アプリケーションを無効にして停止し、サーバをリブートする (必須)



ヒント

リブートにより、コール処理が中断される場合があります。

インストール前に無効にする必要があるシスコ認定アプリケーションのリストを参照するには、<http://www.cisco.com/pcgi-bin/ecoa/Search> をクリックします。Solution ペインで、**IP Telephony** をクリックします。Solution Category ドロップダウン リスト ボックスから **Operations, Administration, and Maintenance (OAM)** を選択します。**Search** をクリックします。

アンチウイルス サービス、侵入検知サービス (たとえば、Cisco Security Agent)、OEM サーバエージェント、サーバ管理エージェント、VOIP モニタリング / パフォーマンス モニタリング、またはリモート アクセス / リモート管理エージェントなどのプラットフォーム エージェントは、Cisco CallManager のインストールを妨げる可能性があります。パフォーマンス モニタリング サービス (NetIQ など)、アンチウイルス サービス (シスコ認定の McAfee サービス)、侵入検知サービス、リモート管理サービスなど、プラットフォーム エージェントおよびサービスを無効にすると、これらのサービスに関連する問題が発生することを防止できます。

本書では、シスコ認定の McAfee アンチウイルス サービスを無効にする手順だけを説明しています。その他のサービスまたはアプリケーションを無効にする手順についてヘルプが必要な場合は、製品に付属のマニュアルを参照してください。

McAfee アンチウイルス サービスを無効にするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Start > Settings > Control Panel > Administrative Tools > Services を選択します。

ステップ 2 Services ウィンドウから、アンチウイルス サービス (Network Associates Alert Manager、Network Associates McShield、Network Associates Task Manager、または McAfee Framework Service) のいずれかを右クリックし、**Properties** を選択します。



(注) アンチウイルス サービスの名前は、アンチウイルス ソフトウェアのバージョンに依存します。

ステップ 3 Properties ウィンドウに General タブが表示されていることを確認します。

ステップ 4 Service Status 領域で、**Stop** をクリックします。

ステップ 5 Startup type ドロップダウン リスト ボックスから、**Disabled** を選択します。

ステップ 6 **OK** をクリックします。

ステップ 7 シスコ認定のすべての McAfee アンチウイルス サービス (Network Associates Alert Manager、Network Associates McShield、Network Associates Task Manager) に対して、**ステップ 1** ~ **ステップ 6** を実行します。

ステップ 8 サーバをリブートして、サービスが実行されていないことを確認します。



注意

リブート後にサービスが起動しないことを確認してください。



注意

現在、シスコ認定のアンチウイルス ソフトウェアまたは侵入検知ソフトウェアをサーバにインストールしていない場合は、クラスタ内の全サーバのアップグレードまたはインストールを完了するまで、これらのソフトウェアをインストールしないことを強く推奨します。

ServPrep ユーティリティを実行する（オプション）

必須アイテム：Cisco CallManager Subscriber Upgrade Disk 1

Cisco CallManager をインストールする前に、ServPrep ユーティリティを実行し、シスコが提供するオペレーティングシステム ディスクを使用して Cisco IP Telephony オペレーティングシステムをインストールし、最新のオペレーティングシステムである 2000.4.2sr2（またはそれ以降）にアップグレードする必要があります。

サブスクリバサーバで実行する ServPrep ユーティリティは、ネットワーク情報が含まれるファイル STISys.inf を作成して、ネットワーク設定を更新します。このユーティリティは TCP/IP 設定を保存しますが、ハードコードされた速度やデュプレックスの設定など、手動で設定した NIC 設定は失われます。クラスタ内のすべてのサーバでインストールが完了した後、以前の NIC 設定を手動で設定する必要があります。



注意

このユーティリティは、すべての Cisco Media Convergence Servers、お客様が用意したシスコ認定の構成規格に準拠した HP DL320 および DL380 サーバ、IBM xSeries 330、340、342、および 345 サーバをサポートします。その他のサーバ（お客様が用意したサーバを含む）では、このユーティリティを実行しないでください。

手順

- ステップ 1** なるべく早く、Cisco CallManager Subscriber Upgrade Disk 1 をドライブに挿入します。
- ステップ 2** Upgrade Warning ウィンドウが表示されたら、情報を注意して読み、ウィンドウの下部の **ServPrep Utility** リンクをクリックします。
- ステップ 3** 現在の場所からプログラムを実行し、表示されるプロンプトに従います。

オペレーティング システムをシスコが提供するバージョン 2000.4.2sr2 (またはそれ以降) にアップグレードする (必須)

アップグレードを実行する前に、オペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに記載されているオペレーティング システムの readme 情報を必ず読んでください。このサイトには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> の Cisco CallManager ソフトウェア ページからアクセスできます。

パブリッシャ データベース サーバで最初にアップグレードを実行し、パブリッシャ データベース サーバでの Cisco CallManager のアップグレードを完了してから、サブスクリイバサーバでオペレーティング システムをアップグレードします。

Cisco CallManager Release 4.2(1) にアップグレードする前に、最新のサービス リリース 2000.4.2sr2 (またはそれ以降) 付き Cisco IP Telephony オペレーティング システム バージョン 2000.4.2 をインストールすることを推奨します。Cisco IP Telephony オペレーティング システム バージョン 2000.4.2 Service Release 1 用のアップグレード プログラムは、win-OS-Upgrade-K9.2000-4-2sr2.exe です。

Cisco IP Telephony Server Operating System Service Release をダウンロードしてインストールする (必須)

最新の Cisco IP Telephony Server Operating System サービス リリース (2000.4.2sr2 またはそれ以降) をダウンロードして、インストールします。オペレーティング システム サービス リリースは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。

インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『*Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates*』、および『*Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server*』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にアクセスしてください。

最新の OS 関連のセキュリティ ホットフィックスがある場合は、ダウンロードしてインストールする (推奨)

オペレーティング システムに関連するセキュリティ ホットフィックスは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。

インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『*Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates*』、および『*Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server*』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にアクセスしてください。

ディスクの挿入または Web ファイルのダウンロード



(注)

Cisco CallManager 3.3 からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェア キットに付属するディスクを使用する必要があります。

Cisco CallManager 4.0(x) からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェア キットに付属するディスクまたは Web ダウンロード ファイルを使用してアップグレードできます。



(注) Cisco CallManager に必須であり、かつこれによってインストールされる重要なサードパーティ製コンポーネントには、インストール中に複数回のリブートを必要とするものがあります。また、手動によるインストールプログラムの再実行および設定データの再入力が必要とするものもあります。

必須アイテム : Cisco CallManager 4.2(1) Installation and Recovery Disk または Cisco CallManager 4.2(1) Web ダウンロード ファイル

次の手順を実行してください。

手順

ステップ 1 オペレーティング システムのアップグレード後、サーバにログインしていなかった場合は、Administrator のパスワードを使用してサーバにログインします。

ステップ 2 ディスクと Web のどちらを使用してアップグレードするかを選択します。

- ディスクを使用する場合 : ステップ 3 ~ ステップ 4
- Web ファイルを使用する場合 : ステップ 5 ~ ステップ 10

ディスクを使用する場合

ステップ 3 Cisco CallManager 4.2 Installation, Upgrade, and Recovery Disk 1 を用意し、ドライブに挿入します。

インストール プロセスが自動的に開始します。



ヒント 手順で指示されるまで、ディスクを取り出さないでください。

ステップ 4 「関連する Cisco CallManager サービスをアップグレードしてサーバを検出する (必須)」に進み、アップグレードを続行します。

Web ファイルを使用する場合

ステップ 5 <http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> をクリックします。

ステップ 6 Cisco CallManager Version 4.2 をクリックします。

ステップ 7 Cisco CallManager 4.2(1) アップグレード ファイルをハード ドライブにダウンロードします。

ダウンロードしたファイルを保存した場所を記録します。

ステップ 8 ダウンロードしたファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。

ステップ 9 このファイルを Web アップグレードのためだけに実行することを確認するメッセージが表示されます。Yes をクリックします。

Preparing To Install ウィンドウが表示されます。インストールの準備に数分かかります。

ステップ 10 「関連する Cisco CallManager サービスをアップグレードしてサーバを検出する (必須)」に進み、インストールを続行します。

関連する Cisco CallManager サービスをアップグレードしてサーバを検出する (必須)

次の手順を実行して、アップグレードを続行します。



(注)

オペレーティング システムのアップグレード後、サーバにログインしていなかった場合は、Administrator のアカウントを使用してサーバにログインします。

手順

ステップ 1 Cisco CallManager のアップグレード前およびアップグレード後のバージョンを確認するには、**Yes** をクリックします。

ステップ 2 アンチウイルスおよび侵入検知ソフトウェアを無効にしたことを確認するには、**Yes** をクリックします。



ヒント

ここでサービス パックをインストールした場合は、サービス パックをインストールしてサーバをリブートした後に、Cisco CallManager Installation, Upgrade, and Recovery Disk 1 をもう一度挿入します。Cisco IP テレフォニー アプリケーションがインストール準備を行う間、待機します。

ステップ 3 重要なサードパーティ製コンポーネントを Cisco CallManager がインストールするために、サーバのリブートおよび設定データの入力が必要になる場合があることを確認し、**OK** をクリックします。

ステップ 4 **I accept the terms in the license agreement** オプション ボタンをクリックして Cisco CallManager 使用許諾に同意し、その後 **Next** をクリックします。

ステップ 5 Welcome ウィンドウで **Next** をクリックします。

ステップ 6 Administrator Password / Private Password ウィンドウで、次の操作を行います。

- a. 管理者パスワードを入力し、さらに確認のためパスワードを再入力します。
- b. クラスターのプライベート パスワード フレーズを入力し、さらに確認のためパスワードを再入力します。
- c. **Next** をクリックします。

ステップ 7 Database パスワード ウィンドウで、次の操作を行います。

- a. SQL システム管理者 (SA) パスワードを入力し、さらに確認のためパスワードを再入力します。
- b. **Next** をクリックします。

ステップ 8 インストールを開始するには、**Install** をクリックします。

ステップ 9 サーバをリブートしてインストールを続行するには、**OK** をクリックします。

ステップ 10 サーバがリブート後、Windows Administrator アカウントでログインします。

インストールが開始されます。ステータス ウィンドウが開いて、インストールの進行状況が表示されます。**Cancel** はクリックしないでください。



(注) ステータス バーに表示されるインストールの進行状況は、各ソフトウェア パッケージがインストールされているとき、およびインストール プログラムがユーザのマシンを構成しているときにリセットされる場合があります。インストール プログラムによっては、ステータス バーは複数回リセットされることがあります。インストール プログラムが要求しない限り、サーバをリブートしないでください。

ステップ 11 Cisco CallManager 4.2(1) インストール ディスクを使用している場合、次のアップグレード ディスクを挿入する必要があることを示すメッセージが表示されます。次のステップに従ってください。

- a. Cisco CallManager 4.2(1) Installation, Upgrade, and Recovery Disk 2 を挿入して、**OK** をクリックします。

最初のアップグレード ディスクをもう一度インストールする必要があるというメッセージが表示されます。

- b. Cisco CallManager 4.2(1) Installation, Upgrade, and Recovery Disk 1 を挿入して、**OK** をクリックします。

ステップ 12 **Finish** をクリックします。

ステップ 13 **Yes.** をクリックして、サーバをリブートします。



ヒント

クラスタ内のすべてのサブスクリバサーバのアップグレードが完了するまで、サーバごとに P.2-20 の「Cisco CallManager サブスクリバサーバのアップグレード」の手順を繰り返します。すべてのサーバの更新が完了したら、P.3-1 の「アップグレード後の作業の実行」の適切な手順を実行します。